

標本としての裁縫雛形

三友 晶子

On the Use of *Saiho-Hinagata* as Samples for Making Clothes

Shoko MITOMO

1. はじめに

裁縫雛形（以下、雛形ともいう）は、実寸法の約1/3や1/2等の大きさで仕立てられた衣服や生活用品のミニチュアで、東京家政大学の校祖渡邊辰五郎が考案した画期的な裁縫教授法の一つである。¹⁾ 雛形を用いた裁縫教授は、布地が節約でき、短期間で多種多様な製作方法を学べることから好評を得た。当館では、明治30年から昭和18年までに製作された雛形約4,300点を所蔵しており、そのうちの2,290点が、教科書や裁縫道具などの附61点とともに、重要有形民俗文化財に指定されている。

裁縫雛形は、基本的には学生が授業の課題として製作したものである。現存する雛形の大多数に、製作者の所属・学年・氏名および品名等を記した「墨書」と、校名や指導教員名の「検印」が見られる。また、年次ごとの学習内容を記した「教授細目」によれば、明治28年から昭和6年までの間、雛形製作が課題として挙げられている。つまり、雛形製作の意義は、学生が用布の見積もり方、裁断、縫製、仕上げといった服作りの工程を繰り返し練習することにより、出来上がるまでの過程こそが重要であるといえる。

ところで、本稿で取り上げるのは、こうした「課題としての裁縫雛形」とは趣を異にする、「標本としての裁縫雛形」である。雛形に標本としての用途があったことは、拙文『「卒業生の声」を聞く―「裁縫雛形」をもっと知るために』（東京家政大学博物館館報 No.54, 2010）で触れたように、卒業生の話から確認されている。それに加えて、近年の受入資料の中に、裁縫雛形が標本として用いられた形跡が相次いで見出された。

本稿では、それらの資料を取り上げ、標本としての裁縫雛形、換言すれば、完成した後の裁縫雛形の活用法について見ていくことで、裁縫雛形の教育的役割を再確認したい。

2. 裁縫雛形の標本としての使用例 —近年の受入資料から

裁縫雛形が標本として用いられた例として、近年の受入資料から3件の資料について見ていく。以下で各々について詳しく述べる。

(1) 「参考品目録」について

1) 資料の概要

背表紙に「参考品目録」と書かれた台帳。「参考品」と呼ばれる資料を整理するために作成されたと考えられる。「部」「號」「品名」「製作者」の記入欄がある紙の札が台紙に差し込まれている(写真1)。「號」の欄には標本番号が記入され、例えば「雛97」とある場合は雛形を、「実141」とある場合は実物の資料であることを表している。雛形は、「単衣之部」「袷之部」「綿入之部」「羽織及被布之部」「道行 東コート 合羽之部」「帯及改良服之部」「袴之部」「夜具之部」「シャツ ズボン下 海水浴着之部」「寝冷不知 西洋寝巻之部」「股引 脚絆 猿股之部」「帽子 頭巾 涎掛 前掛類之部」「古代服之部 束帯ト十二単之部」「雑之部」に分類されている。実物は、「實物之部」「洋服ノ部」に分けられ、見出しはないが、ロシア、朝鮮、台湾、中国、アイヌ等の民族服が続く。このうち、雛形について表1にまとめる。

「参考品目録」は、平成23年に、服装史研究室の能澤慧子教授によって当館に持ち込まれた。一見して館藏品との関連が認められたことから、当館へ移管することとなった。服装史研究室は和裁研究室から部屋を引き継いでおり、部屋とともに引き継がれた風呂敷包みの中に当資料が含まれていたという。



写真1 「参考品目録」

2) 「参考品目録」成立の背景

「参考品」という名称は、管見では、明治37年の『東京裁縫女学校同窓会雑誌』に掲載された「図書館規則」に初めて登場する。

東京裁縫女学校(東京家政大学の前身)の図書館は明治37年7月4日に開館した。「図書館規則」

によれば、「第一条 東京裁縫女学校図書館は東京裁縫女学校の図書参考品を収蔵する所とす」²⁾とあり、図書とともに、物である参考品を収蔵していた。閲覧には「閲覧券」が必要で、「第四条 閲覧券を分ちて普通、特別の二種とす 普通閲覧券を有する者は図書を閲覧するを得 特別閲覧券を有する者は図書及び参考品を閲覧することを得」「第九条 特別券は本館係員に金五銭を納め交付を請う可し」³⁾とあるように、参考品の利用に際しては、図書よりも厳しい規則が設けられていたことがわかる。また、一度に利用できる数として、「普通閲覧者…二種五冊以内 特別閲覧者…三種十五冊以内及び参考品二種四個以内」⁴⁾と決められていた。

「参考品目録」には、目録作成の時期や用途が書かれておらず、図書館での参考品管理に使用されていたと断言することはできない。しかしながら、表1で示したように、参考品の製作者の多くが、明治37年から39年の卒業生である。少なくとも、明治37年頃、学園の方針として、意識的に標本を調達し、学習や研究の資としていたことがうかがえる。さらには、標本が閲覧という形で、学生・卒業生等の利用者の手に委ねられていた状況を鑑みると、それなりの管理体制が必要だったはずで、そのために「参考品目録」が使用されていた可能性は十分に考えられる。

3) 参考品と現存する裁縫雛形との照合 —八木タツさん製作の雛形

当館の館蔵品の中に、参考品目録に記載された資料と同定できる資料は残っていない。昭和5年に発行された『創立五十年史』には、図書館について「当時図書七百部。参考品五百点ヲ有シ、漸次多キヲ加ヘタルモ、大正十二年ノ大震災ニ遭ヒ、尽ク烏有ニ帰セリ。」⁵⁾とある。またその後も、東京大空襲によって学園に蓄積された資料の多くが焼失した。

ただし、ここに興味深い例がある。表1のNo.186「雛154號 義経袴」について、製作者「八木たつ子」(高等科・明治38年 本名：八木タツ)さんが製作した他の雛形は、現在当館で所蔵しているのである。(写真2)平成18年に、雛形107点、実物大の型紙43点等がご家族から寄贈された。107点という数は、製作品の全てではないかもしれないが、一人の学生が製作した数としてはかなりまとまっている。また、雛形とともに寄贈された、八木タツさんが使用したと思われる教授細目の写しと照らし合わせると、教授細目と残された雛形の品目はほぼ一致する。

ところで、「義経袴」というのは、源義経が陣中で用いたといわれる袴で、雛形が製作された明治時代後期には日常的に着用されることはなくなっていた。雛形製作において、実際には着用しない歴史的な衣服を、おそらくは服飾文化史的な意味合いで製作する場合があります、義経袴もその類に入る。同様の袴に、「小袴」「野袴」「平袴」「細袴」がある。館蔵品の雛形を見る限り、これらの袴は、5種全て作るか、一つも作らないかのどちらかのようで、主に明治時代の高等科で製作されていた。

八木タツさん製作の雛形には、小袴、野袴、平袴、細袴はあって、義経袴はない。何らかの理由で紛失したものと考えていたが、「参考品目録」に記載があったことで、その行方が知れた。このことから、雛形の参考品の多くは、そのために作られるというよりは、学生が課題として製作したものの中から、特に優秀なものが選ばれ、製作者が卒業した後も学園で保管していたと推測できる。

表1 「参考品目録」より裁縫雛形一覧

No.	分類	號	品名	製作者	製作者卒業年	
1	單衣之部	雛1號	小裁單襦袢	本科一年前期	渡邊たまの	明治39年
2		雛2號	中裁單襦袢	本科一年前期	馬場とよ子	不明
3		雛3號	本裁單襦袢	本科一年前期	馬場とよ子	不明
4		雛4號	本裁男物袷半襦袢	本科一年前期	水野?子	不明
5		雛11號	大人女長襦袢	普通科生	池田さく子	明治38年
6		雛14號	大人男物半胴着	本科一年前期	馬場とよ子	不明
7		雛13號	大人女長胴着	普通科生	佐藤たけ子	明治39年
8		雛5號	一ツ身單衣	本科一年前期	釣谷はつゑ	不明
9		雛6號	三ツ身單衣	本科一年前期	渡邊たまの	明治39年
10		雛7號	四ツ身單衣	本科一年前期	岸ゑつ子	明治39年
11		雛9號	大人女物單衣	本科一年前期	岸ゑつ子	明治39年
12		雛8號	大人男物單衣	本科一年前期	蜂谷さん子	明治39年
13		雛50號	大人女帷子	本科二年後期	砂川さと子	明治39年
14		雛49號	大人男物帷子	本科一年後期	青柳?子	不明
15		雛53號	一ツ身單衣本重(絹布)	本科一年後期	内山けい子	明治39年
16		雛51號	大人女物單衣本重	本科一年後期	内山けい子	明治39年
17		雛52號	大人女物單衣本重(絹布)	本科一年後期	内山けい子	明治39年
18	袷之部	雛15號	一ツ身袷	本科一年前期	馬場と代子	不明
19		雛16號	二ツ身袷	本科一年前期	高橋はる子	明治39年
20		雛17號	三ツ身袷	本科一年前期	馬場とよ子	不明
21		雛18號	四ツ身袷	本科一年前期	三戸なつ子	明治39年
22		雛19號	前袷裁袷	本科一年前期	水野さう子	不明
23		雛21號	大人女物袷(綿布)	普通科生	高橋しげ子	不明
24		雛20號	大人男物袷	本科一年前期	福井かく?子	不明
25		雛71號	大人女袷小袖	普通科生	北川光枝	明治38年
26		雛70號	大人男袷小袖	普通科生	二宮はな子	不明
27		雛72號	大人男袷(総割仕立)綿布	普通科生	豊田みや子	明治39年
28	雛87號	大人女袷附比翼(綿布)	普通科生	亀山はま子	明治38年	
29	綿入之部	雛23號	一ツ身綿入れ	本科一年前期	橋本里ん子	明治38年
30		雛24號	二ツ身綿入れ	本科一年前期	福井かく?子	不明
31		雛25號	三ツ身綿入れ	本科一年前期	飯島てい子	明治39年
32		雛26號	四ツ身綿入れ	本科一年前期	渡邊たまの	明治39年
33		雛28號	綿布大人女綿入	本科一年後期	青柳ち?う子	不明
34		雛27號	綿布大人男綿入	本科一年後期	青柳ち?う子	不明
35		雛74號	大人女小袖一重	普通科生	松本まさ子	明治39年
36		雛73號	大人男小袖一重	普通科生	林みや子	明治38年
37		雛75號	大人男物綿入(両面仕立)綿布	普通科生	大山千代子	明治38年
38		雛86號	大人女物本比翼(綿入)絹布	普通科生	森とらの	明治38年
39		雛12號	一ツ身丸胴着	本科一年前期	福井かく?子	不明
40	羽織及被布之部	雛32號	三ツ身改良袖羽織 絹布	本科二年後期	中西あや子	明治39年
41		雛33號	四ツ身筒袖羽織	本科一年後期	堀井いね子	明治39年
42		雛35號	大人女綿入羽織 綿布	本科一年後期	上野やす子	明治39年
43		雛83號	大人女綿入羽織 絹布	普通科生	加藤ます子	明治45年
44		雛34號	綿布大人男物綿入羽織	本科一年後期	青柳ち?う子	不明
45		雛80號	大人男綿入羽織 絹布	普通科生	橋下よし子	不明
46		雛30號	大人女袷羽織 綿布	本科一年後期	藤平ふじ子	不明
47		雛82號	大人女袷羽織(総割仕立)絹布	普通科生	井坂とみ子	明治38年
48		雛29號	綿布大人男物袷羽織	本科一年後期	青柳ち?う子	不明
49		雛77號	大人男袷羽織(絹布)	普通科生	雨宮つね子	不明
50		雛78號	大人男物袷羽織(総割仕立)	普通科生	二宮はな子	不明
51		雛79號	大人男物袷羽織(両面仕立)絹布	普通科生	奥宮やす子	明治38年
52		雛81號	大人女單衣羽織(総伏せ仕立)絹布	普通科生	外村すみ子	明治38年
53		雛76號	大人男物單衣羽織	教員	天貝さく子	-
54		雛208號	女羽織袴纏	高等科前期	原田りう子	明治38年
55	雛206號	清元羽織	高等科前期	鈴木きん子	明治39年	
56	雛37號	一ツ身ソデナシ被布 絹布	本科一年後期	梅林?う子	不明	
57	雛38號	三ツ身被布 絹布	本科一年後期	鈴木ふさ子	不明	
58	雛39號	四ツ身被布 絹布	本科一年後期	小林ろ?く子	不明	
59	雛40號	大人女物被布	本科一年後期	堀井いね子	明治39年	
60	合東 羽コ 之部 ト	雛44號	大人女綿入道行(綿布)	本科一年後期	梅林?う子	不明
61		雛43號	大人男物袷道行	本科一年後期	内山けい子	明治39年
62		雛42號	大人男物單衣道行	本科一年後期	堀井いね子	明治39年

標本としての裁縫雛形

No.	分類	號	品名	製作者	製作者卒業年
63	道行東コート 合羽之部	雛48號	大人女物吾妻コート	本科一年後期	尾高たか子 明治38年
64		雛47號	大人男物吾妻コート	本科一年後期	牧野よし子 明治38年
65		雛45號	大人女物雨合羽(被布仕立)	本科一年後期	砂川さと子 明治39年
66		雛46號	大人女雨合羽	本科一年後期	砂川さと子 明治39年
67		雛84號	大人男袴半合羽(徳川時代)	普通科生	白井こと子 明治38年
68		雛85號	大人男單衣長合羽(徳川時代)	普通科生	白井こと子 明治38年
69		293號	風合羽		
70	217號	風合羽		?しげ 不明	
71	218號	風合羽			
72	帯及改良服之部	雛89號	女丸帶上仕立	普通科生	福本む?子 明治38年
73		雛88號	鯨帶上仕立	普通科生	藤井てる子 明治38年
74		雛90號	男帶上仕立て	普通科生	福本む?子 明治38年
75		雛126號	丸紵帶	普通科生	森とらの 明治38年
76		雛36號	改良羽織(男物)	助教	林ひで子 -
77		雛?324號	改良羽織一種		林ヒデ子 -
78		雛41號	改良羽織 絹布	本科二年前期	桑島すみ子 不明
79		雛22號	改良服 絹布	本科二年後期	武藤里う子 明治38年
80	雛97號	改良袴 絹布	本科二年後期	武藤里う子 明治38年	
81	袴之部	雛91號	五ツ子女袴	本科二年後期	小野澤かね子 明治38年
82		雛92號	七ツ子女袴 縹子	本科二年後期	武藤里う子 明治38年
83		雛93號	中裁女袴 縹子	本科二年前期	中川しづ子 不明
84		雛94號	大人三ツ稜女袴	本科二年前期	中川しづ子 不明
85		雛96號	襠有七ツ稜女袴	本科二年後期	西村ちよ子 不明
86		雛95號	大人大門腰女袴	本科二年後期	阿部とき子 明治38年
87		雛98號	五ツ子馬乘袴	本科二年後期	阿部とき子 明治38年
88		雛99號	中裁馬乘袴	本科二年後期	堀井いね子 明治39年
89		雛100號	中裁馬乘袴	本科二年前期	内田のぶ子 不明
90		雛102號	四布遣馬乘袴	本科二年後期	齊藤とよ子 明治38年
91		雛101號	十番馬乘袴	本科二年前期	片野千代子 不明
92		雛103號	十布遣馬乘袴	本科二年後期	齊藤とよ子 明治38年
93		雛104號	袷十番馬乘袴	本科二年後期	服部はぎの 明治38年
94		夜具之部	雛114號	三布蒲団	普通科生
95	雛116號		鏡蒲団	普通科生	道家をわり 明治38年
96	雛113號		ソデナシ夜着	普通科生	道家をわり 明治38年
97	雛112號		大夜着	普通科生	石原うた子 明治38年
98	雛115號		籠蒲團	普通科生	八木その子 明治38年
99	雛111號		蚊帳	普通科生	田中さい子 明治38年
100	シャツズボン下海水浴着之部	雛58號	小供物普通シャツ	普通科生	贅田きよ子 不明
101		雛61號	中裁普通半袖シャツ	普通科生	新木ます子 明治38年
102		雛62號	大人普通胴形シャツ	普通科生	新木ます子 明治38年
103		雛63號	大人太鼓胴飾シャツ	普通科生	酒井とし子 明治39年
104		雛64號	大人胸当附飾シャツ	普通科生	藤井てる子 明治38年
105		雛60號	運動シャツ、ツボン下	普通科生	高村きせ子 明治38年
106		雛59號	水兵形運動シャツ、ツボン下	普通科生	鈴木よ?ね子 不明
107		雛65號	小供物紐付ツボン下	普通科生	良地とりゑ子 不明
108		雛67號	大人紐付ツボン下	普通科生	奥宮やす子 明治38年
109		雛66號	中裁股引仕立ツボン下	普通科生	新井くに子 明治39年
110		雛68號	大人股引仕立ツボン下	普通科生	澤田ます子 明治38年
111		雛69號	大人腰廻付ツボン下	普通科生	豊田みや子 明治39年
112	之部 西洋寝巻	雛132號	男女海水浴衣	普通科生	金太すわ子 不明
113		雛128號	小兒紐付寝冷不知	普通科生	鈴木いつ子 明治38年
114		雛129號	小供西洋寝巻	普通科生	竹下ゆう子 不明
115		雛127號	小兒鉤掛寝冷不知	普通科生	戸叶せき子 不明
116	股引脚絆猿股之部	雛130號	大人西洋寝巻	普通科生	小島まち子 明治38年
117		雛106號	大人男單股引	普通科生	八木その子 明治38年
118		雛105號	大人男單半股引	普通科生	佐藤たけ子 明治39年
119		雛107號	大人男袴股引	普通科生	高橋??子 不明
120		雛108號	大人女股引	普通科助教	石橋や?子 -
121		雛109號	大人女猿股	普通科生	鈴木いつ子 明治38年
122	雛110號	男猿股	普通科生	贅田きよ子 不明	
123	雛252號	雪帽子	高等科前期	原田りう子 明治38年	
124	雛123號	雪帽子(実物二分ノ一)	教員	河合けん子 -	

三友 晶子

No.	分類	號	品名	製作者	製作者卒業年		
125	帽子頭巾涎掛前掛類之部	籬290號	冬帽子		磯山徳子寄贈	-	
126		籬274號	冬帽子		磯山徳子寄贈	-	
127		籬293號	冬帽子		磯山徳子寄贈	-	
128		籬272號	三四才夏帽子		磯山徳子寄贈	-	
129		籬249號	三才兒童帽子		磯山徳子寄贈	-	
130		籬271號	二三才帽子		磯山徳子寄贈	-	
131		籬251號	日除帽子		高等科前期	井田なほ子	明治38年
132		籬254號	瀬川帽子		高等科前期	中島さと子	明治37年
133		籬230號	大黒頭巾		高等科前期	関もと子	不明
134		籬122號	赤兒大黒頭巾(昔風)		普通科生	門田見なみ子	明治39年
135		籬121號	大人物宗十郎頭巾		普通科生	小西?子	不明
136		籬231號	船底頭巾		高等科前期	栗原まん子	明治35年
137		籬247號	早通頭巾		高等科前期	三輪とね子	明治38年
138		籬248號	山岡頭巾		高等科前期	関もと子	不明
139		籬125號	和洋涎掛七種		助教	石橋や?子	不明
140		籬301號	梅の花形涎掛			高橋もと子寄贈	-
141		籬124號	捻梅形涎掛		普通科生	高橋もと子	明治38年
142		籬55號	子供物鉤掛西洋前掛		普通科生	谷澤ふじ子	不明
143		籬57號	袖付小供物西洋前掛		普通科生	中野くみ子	明治38年
144		籬56號	大人女物西洋前掛		普通科生	門田見なみ子	明治39年
145		籬67號	小兒下着		本校生徒		-
146		東帯十二重之部 古代服之部	籬165號	御襪	高等科前期	神林ひさの	明治36年
147			籬180號	袴	高等科前期	落合もと子	不明
148			籬146號	袴	高等科前期	萩原らん子	不明
149			籬163號	下襲	高等科前期	神林ひさの	明治36年
150	籬158號		大口袴	高等科前期	清田よし子	明治32年	
151	籬157號		表袴	高等科前期	高野さだ子	明治37年	
152	籬143號		袍	高等科前期	安田かよ子	不明	
153	籬137號		十二一重ノ内 緋之半袴	高等科前期	三上あい子	明治37年	
154	籬139號		十二一重ノ内 緋之長袴	高等科前期	三上あい子	明治37年	
155	籬136號		十二一重ノ内 單衣	高等科前期	秋田かよ子 乾みちゑ 橋本なつ子	明治38年	
156	籬135號		十二一重ノ内 表着	高等科前期	秋田かよ子 乾みちゑ 橋本なつ子	明治38年	
157	籬141號		十二一重ノ内 裳	高等科前期	安田かよ子	不明	
158	籬138號		十二一重ノ内 唐衣	高等科前期	秋田かよ子 乾みちゑ 橋本なつ子	明治38年	
159	雑之部	籬179號	半襪	高等科前期	中島さと子	明治37年	
160		籬147號	單裾	高等科前期	清田よし子	明治32年	
161		籬142號	打着	高等科前期	齊藤ぬい子	明治38年	
162		籬145號	大直衣	高等科前期	関もと子	不明	
163		籬144號	小直衣	高等科前期	三輪とね子	明治38年	
164		籬170號	大紋	高等科前期	小坂うめ代	明治35年	
165		籬172號	大紋	高等科前期	新井千代子	明治38年	
166		籬171號	大紋ノ長袴	高等科前期	小坂うめ代	明治35年	
167		籬176號	直垂	高等科前期	齊藤ぬい子	明治38年	
168		籬177號	直垂ノ袴	高等科前期	齊藤ぬい子	明治38年	
169		籬169號	長絹	高等科前期	金関?千代子	不明	
170		籬200號	關腋	高等科前期	清田よし子	明治32年	
171		籬201號	關腋ノ下袴	高等科前期	清田よし子	明治32年	
172		籬166號	白丁	高等科前期	金関?千代子	不明	
173		籬167號	白丁ノ下袴	高等科前期	金関?千代子	不明	
174		籬178號	狩衣	高等科前期	平井すゑの	明治38年	
175		籬190號	素絹	高等科前期	金関?千代子	不明	
176		籬169號	長絹ノ下袴	高等科前期	金関?千代子	不明	
177		籬174號	水干	高等科前期	両角きぬの	不明	
178		籬175號	水干下ノ指貫袴	高等科前期	両角きぬの	不明	
179		籬191號	長素絹	高等科前期	田中はつ子	不明	
180		250號	水干雛形			両角きぬの	不明
181		籬218號	被衣	高等科前期	藤岡友代子	不明	

標本としての裁縫雛形

No.	分類	號	品名	製作者	製作者卒業年	
182		雛204號	御末の腰巻	高等科前期	原田りう子	明治38年
183		雛162號	本長袴	高等科前期	両角きぬの	不明
184		雛173號	大紋ノ半長袴	高等科前期	秦うめの	明治38年
185		雛148號	平袴	高等科前期	阿部たつ子	明治37年
186		雛154號	義経袴	高等科前期	八木たつ子	明治38年
187		雛149號	小供其脚半	高等科前期	加山きん子	不明
188		雛153號	東縊袴	高等科前期	高橋さい子	明治38年
189		雛152號	指貫袴	高等科前期	中島さと子	明治37年
190		雛161號	僧侶ノ指貫袴	高等科前期	平井すゑの	明治38年
191		雛156號	細袴	高等科前期	阿部たつ子	明治37年
192		雛155號	野袴	高等科前期	中島さと子	明治37年
193		雛150號	裁附袴	高等科前期	加山きん子	不明
194		雛151號	シャモ裁附	高等科前期	加山きん子	不明
195		雛160號	男モッペイ	高等科前期	後藤せん子	不明
196		雛159號	女モッペイ	高等科前期	後藤せん子	不明
197		雛225號	天皇陛下ノ御湯衣	高等科前期	小坂うめ代	明治35年
198		雛227號	皇后陛下御浴衣			
199			皇子???單衣			
200			皇????襦袢			
201		雛198號	三才羽織	高等科前期	後藤せん子	不明
202		雛199號	三才羽織下ノ袴	高等科前期	原田りう子	明治38年
203			段袋袴			
204		雛196號	陣羽織	高等科前期	星野なか子	明治38年
205		雛207號	野羽織	高等科前期	落合もと子	不明
206			野羽織		原田りう子	明治38年
207		雛192號	偏綴	高等科前期	田中はつ子	不明
208		雛182號	丸形四ツ稜肩衣	高等科前期	星野なか子	明治38年
209		雛183號	中一文字肩衣	高等科前期	星野なか子	明治38年
210		雛185號	袷	高等科前期	長加部はる子	明治38年
211	雑 之 部	雛181號	眞一文字肩衣	高等科前期	高野さだ子	明治37年
212		雛184號	門徒肩衣	高等科前期	横田ちか子	明治38年
213		雛249號	門徒帽子	高等科前期	横田ちか子	明治38年
214		雛186號	高等学校禮服	高等科前期	高橋さい子	明治38年
215		雛187號	辯護士禮服	高等科前期	中村ます子	不明
216		雛189號	辯護士帽子	高等科前期	松本たか子	不明
217		291號	辯護士帽子			
218		雛188號	醫師ノ改良服	高等科前期	後藤せん子	不明
219		雛235號	手術衣	高等科前期	中島さと子	明治37年
220		雛233號	手術衣	高等科前期	中島さと子	明治37年
221		雛234號	手術衣	高等科前期	中島さと子	明治37年
222		雛217號	消毒衣	高等科前期	松本たか子	不明
223		雛215號	看護服	高等科前期	小早川みねよ子	明治36年
224		雛216號	看護婦帽子	高等科前期	小早川みねよ子	明治36年
225		雛245號	夏ノ腹掛	高等科前期	大木千代子	明治43年?
226		雛246號	襦袢衿腹掛	高等科前期	大木千代子	明治43年?
227		雛244號	裕腹掛	高等科前期	大木千代子	明治43年?
228		292號	裕腹掛			
229		雛240號	手刺	高等科前期	大木千代子	明治43年?
230		雛241號	裕手甲	高等科前期	大木千代子	明治43年?
231		雛242號	夏ノ手甲	高等科前期	大木千代子	明治43年?
232		雛243號	夏ノ手甲	高等科前期	大木千代子	明治43年?
233		雛237號	山附脚絆	高等科前期	井田なほ子	明治38年
234		雛238號	鳥足脚絆	高等科前期	井田なほ子	明治38年
235		294號	横地脚半			
236		雛226號	國旗	高等科前期	加藤あい子	明治36年
237		雛229號	幟	高等科前期	宇野ひさ子	明治37年
238		雛227號	男幕	高等科前期	加藤あい子	明治36年
239	雛228號	女幕	高等科前期	加藤あい子	明治36年	
240	雛222號	切暖簾	高等科前期	阿部たつ子	明治37年	
241	雛223號	長暖簾	高等科前期	阿部たつ子	明治37年	
242	雛224號	太鼓暖簾	高等科前期	落合もと子	不明	
243	雛220號	箆筒油單	高等科前期	宇野ひさ子	明治37年	

三友 晶子

No.	分類	號	品名	製作者	製作者卒業年		
244	雑 部	籬221號	長持油單	高等科前期	原田りう子	明治38年	
245			釣臺油單				
246		籬219號	挾箱油單	高等科前期	高野さだ子	明治37年	
247		籬194號	男胞衣	高等科前期	田中はつ子	不明	
248		籬193號	女胞衣	高等科前期	田中はつ子	不明	
249		籬195號	湯揚	高等科前期	田中はつ子	不明	
250		籬214號	両稜コロモ	高等科前期	伊与田くに子	明治37年	
251		籬213號	片稜コロモ	高等科前期	伊与田くに子	明治37年	
252		籬202號	袈裟	高等科前期	安田かよ子	不明	
253		籬119號	十徳(利休流)	普通科生	奥山あさ子	明治38年	
254		籬118號	十徳(古織部流)	普通科生	奥山あさ子	明治38年	
255		籬120號	十徳(裏古流,有楽流)	普通科生	神谷つや子	明治38年	
256		籬117號	布衣信	普通科生	中野くみ子	明治38年	
257		籬203號	帛紗	高等科前期	中島さと子	明治37年	
258		籬133號	單帛紗(捻紵額縁)	教員	天貝さく子	-	
259		籬131號	ハツ裙帛紗	助教	桑原す?子	-	
260		籬242號	琴の袋				
261		籬205號	徳川時代御末の腰巻	高等科前期	神林ひさの	明治36年	
262		籬212號	徳川時代ノ女重ネ下着		明石うめ子	不明	
263		籬211號	元禄時代ノ薙袖	高等科前期	北村貞子	明治38年	
264		籬210號	元禄時代ノ女小袖	高等科前期	藤田さく子	明治39年	
265			火事頭巾				
266			婦人火事袴				
267			鎧直垂同下袴				
268			米澤モッペイ		門地文子	-	
269			籬335號	天平時代大口袴			
270			籬334號	天平時代表袴			
271			籬332號	天平時代半褌			
272			籬331號	天平時代單 朝服闕腋			
273			籬333號	表袴			
274		籬336號	下襲				
275		籬247號	擊劍道具				
276		籬244號	?				
277	洋 服 部	籬277號	學校制服(半身)	高等科後期			
278		籬260號	プリンセススカート(二分ノー)	高等科後期	平島ちか子	不明	
279		籬283號	パンツ	高等科後期	佐貫よし子	明治38年	
280		籬262號	シャートウエスト(二分ノー)	高等科後期	水津とも子		
281		籬272號	乗馬用スカート	高等科後期			
282		籬285號	ルシャンブラウズ(二分ノー)	高等科後期	秋田かよ子	明治38年	
283		籬275號	ダブルプレステットジャケット	高等科後期			
284		籬270號	猿股	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
285		籬42號	小供シャツ	高等科後期			
286		籬273號	ゼレニデースカート	高等科後期			
287		籬259號	スリーゴアートコステイユムスカート(二分ノー)	高等科後期	水津とも子	不明	
288		籬281號	トラウザース	高等科後期			
289		籬268號	ベティコート(大人用)	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
290		籬280號	シングルプレステットサックコート	高等科後期			
291		籬263號	シミズ(女児用)	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
292		籬278號	モーニングコート(半身)	高等科後期			
293		籬264號	ドロワース(女児用)	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
294		籬265號	ベティコート(女児用)	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
295		籬261號	ボレロジャケット(二分ノー)	高等科後期	水津とも子	不明	
296		籬279號	シングルプレステットオーバーコート(男女用)	高等科後期			
297		籬282號	シングルプレステットベスト(衿無)	高等科後期			
298		籬286號	ルシャンブラウズ(二分ノー)	高等科後期	乾みちゑ子	明治38年	
299		籬257號	イトンジャケット(二分ノー)	高等科後期	水津とも子	不明	
300		籬255號	インヴァーネスコート(二分ノー)	高等科後期	平島ちか子	不明	
301		籬267號	ドロワース(大人用)	高等科後期助教	赤沼まつを	-	
302		籬274號	婦人水兵服	高等科後期			
303		籬256號	ラグランオーバーコート(二分ノー)	高等科後期	佐藤よし子	不明	

※「分類」「號」「品名」「製作者」は、「参考品目録」の記載によるが、一部旧字体を新字体に改めた。

※「製作者卒業年」は緑窓会会員名簿による。複数の学科を卒業している場合、「製作者」欄に記載のある学科の卒業年とした。

※ 文字が不明瞭な個所は?で表した。

標本としての裁縫雛形

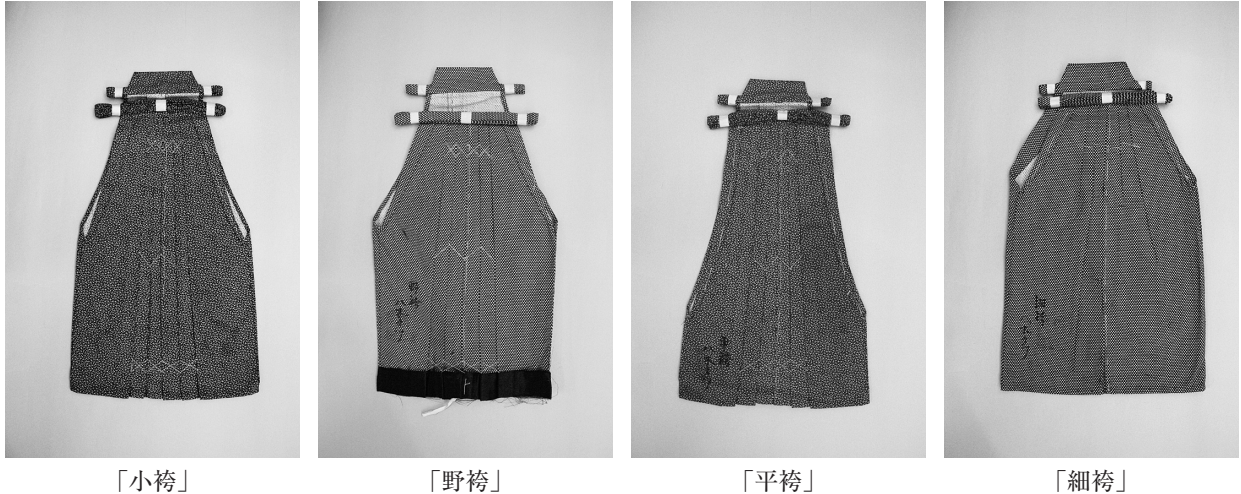


写真2 八木タツさん製作雛形の一例

(2) 高木氏寄贈の裁縫雛形

1) 資料の概要

次に、平成22年に高木咲子氏より寄贈された裁縫雛形について見ていく。雛形は、製作者のご家族から寄贈されるケースが多いが、高木氏は骨董品店から譲り受けた雛形を当館へ寄贈して下さった。その数117点。一部の雛形には、「渡邊氏之印」が押されている。これは館蔵品の雛形のうち、主に明治30～34年の間に卒業した学生の製作品に見られる印である。また、数点の雛形に墨書された「大江婦久江」という氏名は、明治34年卒業生のものであった。その他の雛形についても、生地や品目等に本学の特徴が見られた。この中に、標本として使用された可能性のある、品名と解説を記した付箋付きの雛形が含まれていた。(写真3) 以下で詳しく述べる。



写真3 説明書きの付いた雛形「小袴」

表2 雛形に付けられた説明書きの内容

登録番号	資料名	解 説
20265	男胞衣	抱着 背守縫ニヨリ男女アリ
20266	小袴	小袴 小袴の用い方は通常の袴の如く着用し、遠足のときは、共切の脚半を着け、膝の下に於て裾口の紐を引しめ裁付袴を着せし様になして着用するなり これを略して裁付袴を製せしなり
20267	野袴	野袴 仙台平或は緞子等を以て仕立 仙台平なれば裾口に縹子の縁をつけ、緞子なれば天鷲絨を付るなり
20268	細袴	細袴 細袴は元治慶應の頃流行し又此頃合羽羽織或は参材羽織清元羽織等流行せしなり
20270	義経袴	義経袴 義経袴ハ旅行等ニ用キル袴ニシテ小倉或ハ博多織等ヲ以テ製ス 義経ハ軍中ニ於テ之ヲ着用セシト云フ
20271	裁付	裁付袴 裁付袴ハ小袴ヲ略セシモノニシテ旅行或ハ祭礼ノ時ナドニ用フルナリ
20291	直垂 刺貫袴	上 直垂 下 刺貫 直垂は昔武家の礼服なり 地は紗生絹精好等にして上下同地同色を用ゆ 麻布をも用ゆ 袴は長袴を着するを常となりしが後世は多く半袴を用ゆ 歴史部の刺貫袴は藤織にして白羽二重の紐を付け稜も前後同様なり 当今は種々の織物を以て製す
20292	狩衣	狩衣 狩衣は昔狩に行く時用ひたるなり 故に此名あり 表地は白紋紗裏には萌黄を用ひ是は五位以上の者ならでは着すること能はず 五位以下は無紋を用ゆ 布衣とは中古近代にては総て狩衣のことをいふなり。狩衣を着す時は烏帽子ト指貫を用す
20303	下袴 (大口袴)	大口袴 大口袴は東帯ノ下ニ用ふ 地質赤平絹なり
20306	縷袴	東縛袴 東縛袴は刺貫袴を略せしなり
20314	挾箱油単	挾箱油単 地質ショウジョウ緋に金ベリヲツケ 下ハ緞子ノ笹ベリヲ付ル 中ニハ装束ヲ入ル
20343	朝鮮服	朝鮮服 朝鮮国藝人ノ服ナリ 表時色 裏ひわ色 地ハ紗ナリ
20344	朝鮮服	朝鮮服 朝鮮ノ小供服ナリ 地質ハ緋ノロービキ キャラコニテ 裏ハ白キャラコナリ エリ浅黄ノキヌ ヒモ同ジ エリ白絹
20345	朝鮮服	朝鮮服 朝鮮ノ婦人服ナリ 表桃色ノ絹 裏白キャラコ エリハ白絹
20371	弁護士礼服	辯護士の禮服 辯護士ノ禮服ハ厚板 綾羽 縹子 カシメル アルパカ 絹セル等ノ黒色ヲ用フルナリ 衿及肩ノ縫ハ縫箔屋ニ於テ之ヲ為ス

2) 説明書きの付いた裁縫雛形

説明書きの付いた雛形は15点ある。付箋に書かれた内容を表2にまとめた。付箋は、全ての雛形に付いているわけではなく、主に古い時代の服、儀礼服、民族服等に見られる。解説の内容は、服の用途や由来、生地について書かれたものが大半である。生地については、雛形製作では、実際には絹や毛織物で仕立てる服でも、木綿を用いることが多かったため、必要に応じて実状を補足する必要があったのだろう。

これらの雛形は、墨書や検印がなく、はじめから標本として用いることを目的に、教員が製作した可能性が考えられる。(1)で挙げた「参考品目録」に目を向けると、学生の製作品が圧倒的に多いが、製作者の欄には少数ながら「教員」の文字も見られる。

(3) 山田氏寄贈の裁縫雛形

1) 資料の概要

次に、平成21年に山田和子氏より寄贈された雛形について見ていく。寄贈者のお祖母様である山田クニさん、お母様の山田重子さんが製作した雛形で、親子そろっての雛形が寄贈されたのは初めてである。クニさんは東京裁縫女学校本科を明治37年に、重子さんは東京女子専門学校（東京家政大学の前身）専門科を昭和2年に卒業している。クニさんは卒業後、詳細な時期は不明だが、のちに成徳高等学校となる裁縫学校を徳島県に創設した。クニさんが初代校長、重子さんが二代目校長を務めた。

寄贈された雛形は全部で148点。山田クニさんの墨書があるものは90点で、「東京裁縫女学校検印」「渡邊辰五郎之見之印」等の検印が押されている。山田重子さんの墨書があるものは31点で、「専二ノ一」等の検印が押されている。このうち、クニさん製作の雛形55点、重子さん製作の雛形19点に、品名を書いた付箋が縫い付けられていた。

2) 付箋が縫い付けられた裁縫雛形

付箋は、墨書の位置に、あたかも墨書を隠すかのように付けられている。(写真4)クニさんと重子さんの雛形両方に、紙の風合いや筆跡等から判断して、同じ時期のものと見られる付箋が縫い付けられている。また、写真4の「^{えなぎ}胞衣」にも見られるように、肩の辺り（上方）にピンホール状の錆跡がある雛形が多数あり、長期間ピンで台紙等に留め付けられていた様子が浮かんでくる。つまり、明治に製作されたクニさんの雛形と、昭和に製作された重子さんの雛形が、おそらくは自身の学校において、同じ時期に、同じように標本として使用されていたと推測できる。

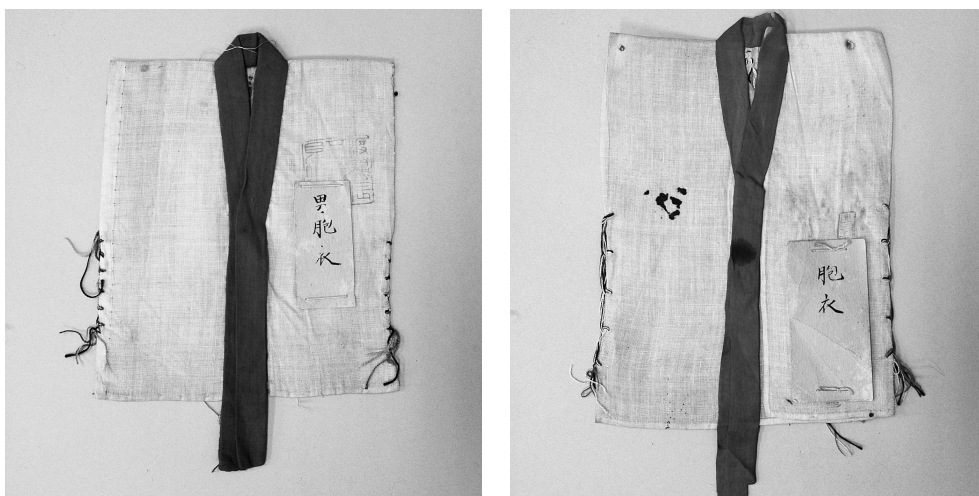


写真4 付箋が縫い付けられた裁縫雛形「^{えなぎ}胞衣」(左は山田クニさん、右は山田重子さんの製作品)

3. まとめ

(1) 製作者について

「参考品目録」には、製作者として学生と教員両方の名前があった。学生の場合は、八木タツさんの例から分かるように、通常の課題製作の中から優秀なものが選ばれたと推測できる。このシステムは、学生のやる気を引き出すことにもなっただろう。また、見本になりうるレベルに学生が達していたことは、当時の教育の質の高さを改めて感じさせるものである。

製作者が教員である場合は、標本を作ることが目的だったわけで、この種の雛形には、基本的には検印や墨書がない。館蔵品の雛形の中にも、本学の雛形の特徴を備えながら、検印も墨書もなく、本学製作の雛形と断定し難いものはいくつかある。それらについて、標本として製作・使用された雛形である可能性を考慮する必要がある。

(2) 標本の使用状況について

標本としての雛形は、どのような場面で使用されたか。まず、学生が課題に取り組む際の見本となる場合があるだろう。これについては、先に触れた「卒業生の声」の中に興味深い証言がある。

「高等科というので入りましたが、時代の、古代服と言うんですか、そういうものを研究するところでした。その古代服を研究するのに、雛形がありまして、雛形をもらいました。材料を持って行って、それ（雛形）をそのままうつして仕立て上げるという細目がございました。…十二単まで、ずっと、あらゆる古代、今から言えば古代ですけれど、その時分にはまあ、古代といい、現代といい、いろいろございました。雛形尺という小さな物差しでもって、その物差しでこしらえたものが、ちょうど雛形になる。いちいちこしらえては先生に見ていただいて、そうしてそれが済みますとその次の雛形をいただいはこしらえて、そうして全部を仕上げてしまう。」⁶⁾（高野織衛 明治34年 高等科卒）。

この話によれば、雛形は、授業中に教員が学生全員に向けて示すというような使われ方でなく、それぞれの進み具合にあわせて各自参照するといった使われ方をしている。

また、明治37年の「図書館規則」からは、図書館での自主学習の際に参考品として雛形が利用された可能性が浮かび上がってくる。高木氏寄贈の雛形に見られた「説明書き」は、このような、説明してくれる教員が近くにいない、自主学習の場面で効力を発揮したものと思われる。

さらに、山田氏寄贈の雛形からは、卒業生が教員となって教壇に立った時に、学生時代に製作した雛形を標本として用いていたことが推測される。技術や知識の伝達という意味で、雛形が有効な手段であることが再確認された。こうした使用状況については、今後、各学校に残された記録や写真等にあたり、調査を進める必要がある。

学生時代の学びが社会に出てからの支えになるのは当然だとしても、より具体的に、すぐに教材として使えるような成果物である雛形を携えて卒業することで、教員として新たな一歩踏み出す学生たちは心強く思ったのではないだろうか。ここに、裁縫の技術だけでなく、教員の養成を意識し、裁縫教授法の指導にも力を入れた、本学の教育の特徴とその表れを見ることができるといえる。

4. おわりに

「雛形」という言葉に「物の見本」という意味があることから、雛形に標本としての役割があったことは容易に想像がつく。本稿では、その形跡が認められる資料のいくつかを挙げるにとどまったが、複数の例をまとめて眺めることで、標本としての雛形の姿をより立体的に描けたのではないかと思う。

また、標本という、モノを通して学ぶことの重要性を、渡邊辰五郎はじめ、本学が早くから意識し、実践していたことが明らかになり、今現在モノとしての資料を保存・活用する立場にある博物館員として、身の引き締まる思いがする。

最後になりましたが、栗林美枝子氏、高木咲子氏、山田和子氏、能澤慧子先生はじめ、当館に資料をご寄贈くださいました方々に改めて厚く御礼申し上げます。特に、高木氏からは、寄贈の際に「教員が製作した見本の雛形ではないか」というご指摘をいただき、「標本としての雛形」という視点を与えていただきました。心より感謝申し上げます。また、付箋の解説等でご指導いただきました前当館館長林宏一先生、写真撮影等に快く協力して下さる当館館員に、この場を借りて日頃の感謝の意を表します。

註

- 1) 裁縫雛形については、重要有形民俗文化財 渡辺学園裁縫雛形コレクション. 上・下巻, 東京, 東京家政大学博物館, 2001, 上巻p.179, 下巻p.1207に詳しい.
- 2) 東京裁縫女学校同窓會雑誌. 東京, 東京裁縫女学校同窓会, 1904, p.33
- 3) 東京裁縫女学校同窓會雑誌. 東京, 東京裁縫女学校同窓会, 1904, p.33
- 4) 東京裁縫女学校同窓會雑誌. 東京, 東京裁縫女学校同窓会, 1904, p.34
- 5) 創立五十年史. 東京, 財団法人渡邊学園, 930, p.69
- 6) 拙稿, “「卒業生の声」を聞く—「裁縫雛形」をもっと知るために”. 東京家政大学博物館館報, No.54. 東京家政大学博物館, 2010

写真は全て東京家政大学博物館蔵。

